

御神木まつり

1

年初めの一イベント



平野御神木まつり

村内の各地区には、家内安全、安産、良縁などの性格を持った道祖神が祀られています。1月初旬、この道祖神の周辺で地区ごとに御神木まつりが行われます。

～年末年始の流れ～

12月30日頃：歳神様を祀る棚を松で飾る。

1月 7日：道祖神に松飾りを集める。

14日：御神木を立てる。どんどん（せえとう）焼きを行う。

個人の家にクリなどの木に紅白の団子などを刺した団子花を飾る。

19日：日の出前に御神木を倒す。

2月1日まで：歳神様の飾りはずす。

村のみんなの

声

団子をどんどん焼きの火で焼いて、風邪・虫歯予防に食べる。

長池ではどんどん焼きを湖の浜で行っている。

どんどん焼きでは、松飾りのほか、書初めも燃やすと、勉強できる、書道上達になると言われている。

御神木で使う木は、男の子の生まれた家の林から伐り出す。

長池の団子は、かつてトウモロコシ粉で作った縁起の良い黄金だった。

長池の御神木が立てられた風景は、富士山を背景にしており、すばらしいものがある。

最近は集められる松飾りが少なくなってさみしい。

平野や長池の団子は養蚕がうまくいくようにマユの形も作っていた。

長池では、鏡餅に橙やユズリハ、柿を「代々、カキゆずる」と縁起を担いで飾っている。

御神木は山梨一大きいかもしれない。

掘り起こされた

宝

●山中の御神木

●長池の御神木

●平野御神木祭

●正月飾り

January

1月

山の神

2

恵みの山への感謝を込めて



山中の山の神



写真提供) 田中良彦氏 平野の山の神 (上) 長池の山の神 (下)

村では、炭焼き、製材、建築、大工などの山仕事をする人が多かったため、山中、長池、平野の各地区には山の神が祀られています。

かつては1月20日に山の神の祭りである「弓射り」が行われていましたが、山仕事をする人が少なくなってしまった現在は、山中でのみ例祭が行われています。

～弓射りの流れ～

1月17日：山仕事をしている人たちが縁日のような「山の神講」をひらき、山の神に山の安全を祈願する。弓と矢をつくる。

20日：午前0時過ぎに祠に参拝し弓を射る、あるいは猟銃の空砲をうって悪魔祓いをする。

祠に赤飯や団子をさしあげる。

村のみんなの

声

長池の山の神を初めに祀ったのが徐福一行の子孫であると言われている。

昔、荒れた手を「キジの手」と呼んでいた。子どもがこの手をしていると、「わらあ、猟師のおじさんにキジと間違われて鉄砲で撃たれるぞ」と大人に言われた。

山中の山の神は富士山のビューポイントでもある。

「今年も山に入りますのでよろしく」と入山の無事を祈っていた。

長池の山の神様の付近は地盤がよいので、関東大震災の際には、山の神様に逃げたと言われている。

昔は山でイノシシを捕ったり、山菜を採ったりしていたので、感謝する気持ちから山の神を祀った。

掘り起こされた

宝

① 山中の山の神

② 長池の山の神様

③ 平野の山の神

January

1月

郷土料理

3

村のふーどめもりい



おつけだんご

村のみんなの

声

もろこしだんごをいろいろの灰に入れて焼くもちは「はいもぐり」と呼んだ。

葬式の時には、米粉の団子に砂糖をつけて、別れの杯と一緒に食べる風習がある。

蕎麦の栽培と商品開発を進める。

長池の「おつけだんご」はいもがら、じゃがいも、じゅうろくを入れて味噌仕立てにする。

春と秋に収穫祭として行われる「オヒマチ」は、五穀豊穡を祝い、しゃぶしゃぶ、鯛のおかしら、うどんを皆で分けあって食べる。

「ほうとう」は、この辺では「にごみうどん」と呼んでいる。村独自の味付け、具材などがあれば面白い。

南蛮味噌は、レシピ付きで青トウガラシを販売したらよい。

平野は、昔大豆を育てていたから、普通のミソをよく作る。

どこの家庭の南蛮味噌を食べても非常にうまい。

「おすいとん」は、祖父母が「おつけだんご」とも呼んでいた。

赤ちゃんが産まれると、赤ちゃんの頭と同じ大きさの「身売りだんご」を近所に配る。

掘り起こされた

宝

●南蛮みそ

●粉食文化

●いもめし

●葬式の料理

●オヒマチ

January

1月

長池のはじまり

4

羽田一族と天野一族



土手下三戸のある通り

平野地区で起こった山くずれの際に平野地区の住民が移ってきたことから、長池の部落が始まったと言われています。

湧水の豊富な「水ったれ」の土手下の3戸から始まり、羽田姓4戸、天野姓3戸になり、大正時代に38戸となってからは、あまり分戸はしていません。現在でも地区全体が共同体のように協力し合い、長池地区の地域社会を維持しています。

なお、長池地区内には、旧称東組、中組、西組の六、七、八組と移住者の多い細割組があります。細割一帯には水田引用のために、日本で一番小さな水利組合が組織されていました。

現在の墓石の後ろにあるたくさんの細長い石柱は戦死者を供養したものである。

村のみんなの

声

長池には羽田姓と天野姓が多い。

古い墓は、いつくらいのかはわからないが、天保と読める石碑もある。

昔は土葬であり、墓石の前に土の面がたくさんとってあるのはその名残である。

土手下三戸は、古くから伝えられており、その末裔の家は、現在でも全てある。

羽田一族と天野一族それぞれの古い墓跡は平野からの分家になるため、平野のお寺から持ち込んだ石碑もあると思う。

現在の墓地は、1つにまとめられ、古くからいる38戸のお墓は下の段、新しい分家のお墓は上の段に並んでいる。

掘り起こされた

宝

④長池部落の土手下三戸

⑤現在の羽田一族・天野一族の墓

⑥羽田一族の墓(旧)

⑦天野一族の墓(旧)

⑧長池の水田用ポンプ

January

1月